



## 平成29年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成28年7月28日

上場会社名 株式会社 マースエンジニアリング  
 コード番号 6419 URL <http://www.mars-eng.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役常務執行役員管理本部長  
 四半期報告書提出予定日 平成28年8月12日  
 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(氏名) 松波 明宏  
 (氏名) 佐藤 敏昭

TEL 03-3352-8555

上場取引所 東

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成29年3月期第1四半期の連結業績(平成28年4月1日～平成28年6月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第1四半期	5,955	△6.1	940	△24.5	1,095	△24.3	711	△23.6
28年3月期第1四半期	6,344	△2.7	1,245	8.3	1,447	9.3	931	14.2

(注) 包括利益 29年3月期第1四半期 194百万円 (△66.9%) 28年3月期第1四半期 586百万円 (△26.5%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年3月期第1四半期	42.59	—
28年3月期第1四半期	51.50	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
29年3月期第1四半期	56,868	47,435	83.4	2,840.44
28年3月期	57,852	47,755	82.5	2,858.44

(参考) 自己資本 29年3月期第1四半期 47,435百万円 28年3月期 47,755百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年3月期	—	30.00	—	30.00	60.00
29年3月期	—	—	—	—	—
29年3月期(予想)	—	35.00	—	35.00	70.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成29年3月期の連結業績予想(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	13,800	9.2	2,270	△4.0	2,520	△4.4	1,610	△9.9	96.37
通期	30,200	14.2	5,600	26.4	6,100	26.9	3,970	32.5	237.63

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	29年3月期1Q	22,720,000 株	28年3月期	22,720,000 株
② 期末自己株式数	29年3月期1Q	6,019,812 株	28年3月期	6,013,112 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	29年3月期1Q	16,700,987 株	28年3月期1Q	18,084,798 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が発表日現在において入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。業績予想に関する事項については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
(4) 追加情報	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における我が国経済は、政府及び日本銀行による各種政策の推進を背景に、企業の設備投資や雇用環境は緩やかな回復基調で推移しました。その一方で新興国経済の成長鈍化、英国のEU離脱決定による急激な円高や株安等、経済の先行きに対する不透明感が高まりました。

当社グループの主要販売先であるパチンコ業界におきましては、レジャーの多様化や国内消費の伸び悩みにより遊技人口や遊技金額が年々減少しており、厳しい経営環境が続いていることから、閉店や廃業に追い込まれるパチンコホールが増加しました。また、パチンコ機及びパチスロ機の自主規制が行われていることや、検定機と性能が異なる可能性のある遊技機の撤去が今後見込まれていることから、多くのパチンコホールでは周辺設備に対する投資を先送りする傾向にあり、更新需要が低迷する状況が続きました。

このような状況の中、開発型企業グループである当社グループは、開発、製造、販売、アフターサービスに至る一貫体制で、製造原価の低減や多様化する顧客ニーズに適した製品を販売するとともに、充実したアフターサービス体制で付加価値の向上に努め、他社との差別化を図りながら提案販売を行ってまいりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高59億55百万円（前年同四半期比6.1%減）、営業利益9億40百万円（同24.5%減）、経常利益10億95百万円（同24.3%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益7億11百万円（同23.6%減）となりました。

セグメントの実績は次のとおりであります。

#### [アミューズメント関連事業]

パチンコ業界では、店舗の大型店化が進む中で運営に必要な人材の確保、遊技人口が減少する環境下での集客が課題となっており、パチンコホールを取り巻く経営環境は厳しい状況が続きました。

このような状況の中で当社グループは、少人数で効率的なホール経営を実現する「パーソナルPCシステム（以下、「パーソナル」という。）」の拡販に努めてまいりました。

当第1四半期連結累計期間におけるパーソナルの売上実績は15店舗、当第1四半期連結累計期間末時点における導入（実稼働）店舗数は累計1,568店舗（市場シェア17.5%）となりました。また、パーソナルを含めたプリペイドカードシステムの売上実績は16店舗、導入（実稼働）店舗数は累計2,047店舗（市場シェア22.8%）となりました。

空気の流れで紙幣を搬送する「Air紙幣搬送システムHayate（疾風）」は確かな技術とメンテナンスフリーなパフォーマンスが市場から高く評価され、累計導入店舗数は600店舗を超えました。また、新製品の「立体Air紙幣搬送システム」は従来機と同様に紙幣を水平方向に運ぶだけでなく、垂直方向にも運ぶことができ、新しいビジネスチャンスの拡大につながりました。

この結果、アミューズメント関連事業の売上高は、42億64百万円（前年同四半期比12.3%減）、セグメント利益は9億24百万円（同22.9%減）となりました。

#### [自動認識システム関連事業]

RFIDやバーコード等を活用した自動認識システムは、業種を問わず様々なビジネスシーンで活用できるシステムであります。当社子会社の株式会社マーストークンソリューションが主体となり、FA市場、流通市場、アミューズメント市場、健診市場等、広く新規市場への展開を目指し提案販売活動を行っております。市況観、販売状況は依然厳しいものの、低迷していた国内製造業の設備投資は業界ごとに緩やかな回復基調にあり、新製品開発と新規顧客の獲得、前期に吸収合併したX線検査事業を含め、前年同期の売上実績を上回ることができました。

この結果、自動認識システム関連事業の売上高は13億22百万円（前年同四半期比15.4%増）、セグメント利益は81百万円（同31.7%減）となりました。

#### [ホテル関連事業]

ホテル業界におきましては、平成27年に日本を訪れた外国人が推計1,973万人（日本政府観光局の発表）で過去最高を更新し、観光需要は好調に推移しており、良好な経営環境が続きました。

福岡市博多区のホテルサンルート博多は、JR博多駅に程近い立地と質の高いサービスが評価され、地域の中でも高い稼働率を維持することができました。静岡県御殿場市のマースガーデンウッド御殿場は、本年4月に噴水施設を新設し、新たなイベントとして「水と光のファンタジー（幻想的な噴水ショー）」を催した結果、新規顧客とリピーターの増加により稼働率は向上しました。関連事業の「海鮮処博多松月亭（ホテルサンルート博多内）」及び「鉄板焼銀明翠GINZA（東京銀座）」は認知度も高まり、順調に利用者数が増加しました。また、インターネットによる関連商品の販売が好調に推移しました。

この結果、ホテル関連事業の売上高は3億67百万円（前年同四半期比9.4%増）、セグメント損失は67百万円（前年同四半期は74百万円のセグメント損失）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の財政状態は以下のとおりであります。

当第1四半期連結会計期間末の総資産は568億68百万円となり、前連結会計年度末と比較して9億83百万円減少いたしました。

流動資産は336億67百万円となり、前連結会計年度末と比較して11億76百万円減少いたしました。その減少の主な内訳は、受取手形及び売掛金が16億93百万円減少し40億77百万円となりました。

固定資産は232億1百万円となり、前連結会計年度末と比較して1億92百万円増加いたしました。

流動負債は57億91百万円となり、前連結会計年度末と比較して5億17百万円減少いたしました。その減少の主な内訳は、未払法人税等が7億61百万円減少し1億43百万円となりました。

固定負債は36億41百万円となり、前連結会計年度末と比較して1億46百万円減少いたしました。その減少の主な内訳は、リース債務が1億52百万円減少し11億45百万円となりました。

純資産は474億35百万円となり、前連結会計年度末と比較して3億19百万円減少いたしました。その減少の主な内訳は、その他有価証券評価差額金のマイナス幅が4億84百万円増加したことによるものであります。

自己資本比率は83.4%となり、前連結会計年度末と比較して0.9ポイント増加いたしました。

(キャッシュ・フローの状況)

当第1四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は198億71百万円となり、前連結会計年度末と比較して5億55百万円増加いたしました。

当第1四半期連結累計期間における「営業活動によるキャッシュ・フロー」は18億88百万円の収入(前年同四半期は19億96百万円の収入)となりました。主な要因は、売上債権の減少額16億93百万円、税金等調整前四半期純利益10億95百万円等によるものです。

「投資活動によるキャッシュ・フロー」は8億40百万円の支出(前年同四半期は14億56百万円の支出)となりました。主な要因は、子会社株式の取得による支出3億88百万円、投資有価証券の取得による支出3億58百万円等によるものです。

「財務活動によるキャッシュ・フロー」は4億80百万円の支出(前年同四半期は30億9百万円の支出)となりました。主な要因は、配当金の支払額4億67百万円等によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成29年3月期の業績予想につきましては、平成28年5月13日に公表いたしました業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計方針の変更

(平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱いの適用)

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を当第1四半期連結会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

なお、この変更による当第1四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。

(4) 追加情報

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を当第1四半期連結会計期間から適用しております。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	17,759,206	18,914,561
受取手形及び売掛金	5,770,990	4,077,786
リース債権及びリース投資資産	1,858,051	1,682,064
有価証券	1,906,713	1,306,709
商品及び製品	1,988,835	2,183,445
仕掛品	325,402	355,735
原材料及び貯蔵品	1,107,010	1,146,750
その他	4,144,673	4,016,222
貸倒引当金	△17,489	△16,148
流動資産合計	34,843,394	33,667,126
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	7,179,808	7,097,707
土地	5,820,805	5,828,802
その他(純額)	515,431	492,058
有形固定資産合計	13,516,045	13,418,569
無形固定資産		
	167,285	163,915
投資その他の資産		
投資有価証券	7,378,662	7,430,394
その他	2,167,371	2,408,742
貸倒引当金	△220,693	△220,298
投資その他の資産合計	9,325,340	9,618,838
固定資産合計	23,008,670	23,201,323
資産合計	57,852,065	56,868,450
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,735,868	2,493,574
リース債務	1,121,513	1,054,679
未払法人税等	904,440	143,404
賞与引当金	455,892	226,698
その他	1,090,871	1,873,224
流動負債合計	6,308,585	5,791,580
固定負債		
リース債務	1,297,540	1,145,514
役員退職慰労引当金	683,785	691,735
退職給付に係る負債	560,722	566,565
資産除去債務	28,667	28,805
その他	1,217,128	1,208,428
固定負債合計	3,787,844	3,641,051
負債合計	10,096,430	9,432,631

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成28年6月30日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	7,934,100	7,934,100
資本剰余金	8,371,830	8,371,830
利益剰余金	44,313,155	44,523,320
自己株式	△12,302,132	△12,314,885
株主資本合計	48,316,953	48,514,365
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△176,240	△660,764
繰延ヘッジ損益	△29,714	△71,208
退職給付に係る調整累計額	△355,363	△346,573
その他の包括利益累計額合計	△561,317	△1,078,546
純資産合計	47,755,635	47,435,819
負債純資産合計	57,852,065	56,868,450

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)
売上高	6,344,020	5,955,199
売上原価	3,050,051	2,922,248
売上総利益	3,293,969	3,032,950
販売費及び一般管理費	2,048,774	2,092,700
営業利益	1,245,195	940,249
営業外収益		
受取利息	958	20
受取配当金	150,399	163,495
その他	60,868	11,855
営業外収益合計	212,226	175,370
営業外費用		
為替差損	—	19,653
自己株式取得費用	10,281	52
営業外費用合計	10,281	19,706
経常利益	1,447,140	1,095,914
税金等調整前四半期純利益	1,447,140	1,095,914
法人税、住民税及び事業税	337,475	239,603
法人税等調整額	178,227	144,938
法人税等合計	515,702	384,542
四半期純利益	931,437	711,371
親会社株主に帰属する四半期純利益	931,437	711,371

(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)
四半期純利益	931,437	711,371
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△346,415	△484,524
繰延ヘッジ損益	—	△41,493
退職給付に係る調整額	1,133	8,789
その他の包括利益合計	△345,281	△517,228
四半期包括利益	586,155	194,143
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	586,155	194,143

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	1,447,140	1,095,914
減価償却費	151,361	140,833
引当金の増減額(△は減少)	△215,914	△222,979
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	4,225	5,843
受取利息及び受取配当金	△151,358	△163,515
売上債権の増減額(△は増加)	904,183	1,693,203
リース債権及びリース投資資産の増減額(△は増加)	△27,512	193,313
たな卸資産の増減額(△は増加)	△351,423	△264,682
営業貸付金の増減額(△は増加)	267,976	144,301
仕入債務の増減額(△は減少)	155,861	△242,294
リース債務の増減額(△は減少)	△5,106	△218,860
その他	915,193	729,557
小計	3,094,627	2,890,635
利息及び配当金の受取額	151,358	163,515
法人税等の支払額	△1,249,230	△1,165,853
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>1,996,755</b>	<b>1,888,297</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△18,983	△45,494
投資有価証券の取得による支出	△1,322,251	△358,489
子会社株式の取得による支出	—	△388,000
その他	△115,083	△48,524
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△1,456,318</b>	<b>△840,507</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
自己株式の取得による支出	△2,503,148	△12,805
配当金の支払額	△506,232	△467,759
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△3,009,380</b>	<b>△480,565</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	535	△11,878
<b>現金及び現金同等物の増減額(△は減少)</b>	<b>△2,468,407</b>	<b>555,345</b>
現金及び現金同等物の期首残高	22,217,684	19,315,885
<b>現金及び現金同等物の四半期末残高</b>	<b>19,749,276</b>	<b>19,871,230</b>

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	アミューズ メント 関連事業	自動認識 システム 関連事業	ホテル 関連事業			
売上高						
外部顧客への 売上高	4,861,347	1,146,388	336,285	6,344,020	—	6,344,020
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	137,452	18,858	5,277	161,587	△161,587	—
計	4,998,799	1,165,246	341,562	6,505,608	△161,587	6,344,020
セグメント 利益又は損失 (△)	1,199,172	118,588	△74,139	1,243,621	1,574	1,245,195

(注) 1. セグメント利益の調整額1,574千円には、セグメント間取引消去1,574千円が含まれております。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	アミューズ メント 関連事業	自動認識 システム 関連事業	ホテル 関連事業			
売上高						
外部顧客への 売上高	4,264,318	1,322,892	367,988	5,955,199	—	5,955,199
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	152,742	26,472	3,267	182,482	△182,482	—
計	4,417,060	1,349,365	371,255	6,137,681	△182,482	5,955,199
セグメント 利益又は損失 (△)	924,685	81,025	△67,441	938,270	1,979	940,249

(注) 1. セグメント利益の調整額1,979千円には、セグメント間取引消去1,979千円が含まれております。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。